

令和1年度

# 事業報告書

社会福祉法人 みんなでいきる

## 1. 法人の現況

### 1-1 令和1年度総括

新たな時代の幕開けとなった令和1年度ですが、当法人においては大変厳しい1年となりました。経常損益としてはサンクスレルヒの森が開所した平成27年度に次ぐ42,989千円の損失を計上し、平成30年度に続き2期連続での欠損の決算となりました。要因のひとつとして、著しい人員不足による利用の低下です。サンクスレルヒの森の既存職員を集約することによる一部ユニットを閉鎖や、障害福祉事業部のショートステイでは宿直者が不足し週2日の閉所を余儀なくされ、本来であれば収益が得られたであろう部分の機会損失が大きく結果に反映をされました。

対策として、夜勤の安定化を目的とした夜勤専従職員の募集を開始いたしました。条件面において目を引く内容を出さない限り応募は無いものと考え、年収500万円を条件として募集しました結果、5名の職員確保に至りました。また、夜勤専従職員の募集が目を引いた関係で通常の勤務シフトにての応募も増え、令和2年4月1日の入職においては新卒・中途も含め21名の入職があり、通常運営に向けて新年度はスタートを切ることができました。

以前より理事会において課題としてあげられておりました外国人技能実習生の採用ですが、正式に法人として取り組みを始めました。新潟県において初の技能実習生を佐渡の法人が受け入れたことに伴い、当法人においても同じ管理団体を窓口として、ベトナムより2名の技能実習生の受入れを進めております。新型コロナウイルスの影響で入国が遅れておりますが、収束後法人の施設に配属し人員不足の解消の一端となればと考えております。また、ミャンマーからも2名の実習生の受け入れを計画しており、令和2年末に入国する予定で進めております。

一方、ポジティブな話題としては、以前より計画をしておりました保育園事業の参画に道筋がついたことです。上越市の公立園4園の運営募集があり、法人理念に基づき児童や児童を抱える家庭などの問題を法人全体で支える仕組みを活用することによる園運営を謳い運営事業者に選定をされました。令和3年度の共同保育を経て令和4年度から正式に保育園運営を開始いたします。「ちびっこからお年寄り、障害がある無しに係わらず地域に暮らす人の支えになる」という法人理念に一步近づいたものと思われま。

今後も人口減少が加速的に進む地方において人材不足は恒常的なリスクとなります。当法人においても魅力的な事業を展開することによる新卒採用の重点化、外国人労働者の毎年の受入れなど画一的なリクルート活動のみでない施策を展開し人材安定に努め、結果として利用者やそのご家族に安心して暮らせる地域づくりに寄与すべく進んでまいります。

## 2. 平成 30 年度事業方針の取組について

### 2-1 「部門別予算」の達成

(単位：千円)

拠点名	事業収入		達成率	事業損益		達成率
	当初予算	決算額		当初予算	決算額	
サンクス米山	554,535	524,278	94.5%	17,056	10,676	-
サンクス柿崎	201,749	178,258	88.3%	480	18,280	-
サンクスレルヒの森	487,007	485,048	99.5%	51,199	41,098	80.2%
りとるらいふ	266,217	270,922	101.7%	387	2,880	-
若竹寮	194,590	205,724	105.7%	18,249	16,459	90.1%
相談センター	61,405	66,121	107.6%	1,077	4,964	460.9%

### 2-2 共生拠点ばれっとの運営開始

障害福祉事業部として4つ目の拠点施設として「共生拠点ばれっと」(新潟県上越市石橋2丁目3番29号)を平成31年4月1日にオープンした。

サービス名	定員
放課後等デイサービス「もーと」(1F)	10名
グループホーム「ふぁみりあ」(2F)	12名
支援ハウス「ばれっと」(3F)	6室

2Fのグループホームは、りとるらいふ創設時からご利用をされているご利用者が年齢を重ね、また被扶養者である父母が高齢化することに伴い、住み慣れた街・長年ケアをしている職員がいる施設で過ごせるようにしてもらいたいとの要望があり、障害福祉事業部として数年間に渡り検討してきた施設となります。

3Fの支援ハウスは、すぐに福祉サービスを必要としていないが自立した生活をおくれるように自立と見守りを両立させた事業となります。

対象としている方は、障害を持たれた人とそのご両親、グループホームに入るまではいかないが自宅で過ごすことが困難となっている方、児童養護施設若竹寮を卒業したが、まだもう少し見守り生活支援が必要な児童等です。

## 2-3 障害者芸術活動の推進

### (1) 天皇陛下即位記念 第34回国民文化祭にいがた2019

第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会 プログラム

「上越アール・ブリュット公募展」開催

全体趣旨 新たな作り手、支え手と出会う試みとして新潟県内において初めて公募という方法での展覧会を企画。

応募数 100名 2,000点の作品公募

開催概要 上越アール・ブリュット展「ものと語り」

もちより・まちなかアート展

映画「道草」上映会

開催期間 令和1年10月26日～令和1年10月29日

開催場所 ミュゼ雪小町・リブレリアホール・高田世界館

作家数 ミュゼ雪小町 県内外作家15名

リブレリアホール会場 個人、施設合わせて20組

来場者数 1,312名

### (2) 厚生労働省「障害者芸術活動活動普及支援事業」の受託及び運営

東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センターの立ち上げ

愛知、静岡、三重、岐阜、富山、石川、福井、新潟県の東海・北陸ブロック内における普及支援事業

主な活動内容

○相談支援事業（延相談件数1,015件）

○県域センター支援事業

巡回・調査件数

県名	富山	福井	静岡	岐阜	石川	愛知	三重
件数	3回	2回	2回	1回	3回	1回	3回

人材育成研修事業

アクセシビリティ研修

広報研修

アートディレクター研修

アートマネジメント研修

権利関係研修事業

発掘発信事業

上越アール・ブリュット公募展（新潟県）

作品展示会「和日 作美 素生の表現者たち」(富山県)  
 公開オーディションの開催  
 「パフォーマー公開オーディション あしたの星 3」  
 台風 19 号の影響により中止

## 2-4 高齢福祉事業及び障害・児童福祉事業の更なる融合

### 事業部間職員異動実績

平成 28 年度異動者 4 人  
 平成 29 年度異動者 19 人  
 平成 30 年度異動者 13 人  
 令和 1 年度異動者 2 人

異動前	異動後	人数	摘要
りとるらいふ	相談センター	1 人	定期人事異動
サンクスレルヒの森	若竹寮	1 人	"

## 2-5 「働きがいのある職場への実現」への取り組みを実施

### (1) 人員確保対策による職員負担軽減

介護未経験者に対する、介護初任者研修受講費の全額補助を実施。

経験者のみで採用を絞った場合より幅広い採用が可能となり、早期に現場に配属し戦力化することに伴い既存職員の負担軽減を図る。

外国人技能実習生の受入れを実施。

公益社団法人日本会を管理団体としてベトナムより技能実習生の受入れを計画。令和 2 年 8 月に現地に赴き面接を実施し 2 名の採用を決定した。令和 2 年 4 月入国、5 月にサンクス米山へ配属する予定で進めておりましたが、新型コロナウイルスの影響で入国が遅れています。

また、学文協同組合を管理団体としてマンマーより技能実習生 2 名の採用も決定している。来日は令和 2 年 11 月ころを予定している。配属先はサンクスレルヒの森を予定。

今後も、福祉業界への採用は厳しい状況が続くと見ており、毎年数名の技能実習生の受入れを実施計画します。

### 夜勤専従職員の募集

産休等を経て夜勤ができない職員が増えており、他の職員の夜勤回数が増加していることを勘案し、安定的にシフトを維持させる目的で夜勤専従職員の募集を開始した。

【募集条件】夜勤専従手当 月額 100,000 円

年収を 500 万円として設定し募集

令和 2 年 4 月現在、高齢 3 施設において 5 名の夜勤専従職員を確保。

(2) 副業の解禁

就業規則において副業を原則禁止手していたが、休みなどの時間を有効に活用する、昨今の働き方改革に伴う自由な働き方などを考慮し次の通り副業を解禁とした。

「許可基準は現業務に支障がないこととし、施設長及び部長の承認を得たうえで従事できるものとする。尚、現業務に支障が発生した場合は副業を停止するものとする。」

2-6 優秀な人材確保及び離職防止に向けた採用研修への取り組み。

令和 1 年度入職新卒職員採用者数

最終学歴	採用数	配属部署	
大学卒	5人	高齢福祉事業部	5人
短大専門卒	3人	障害福祉事業部	3人
高卒	3人	児童福祉事業部	3人
計	11人	11人	

上記採用者数の内訳(重複あり)

県外大・短大卒数(3人) 上越市外出身者数(3人)

福祉系大卒(4人) 福祉系短大専門卒(3人)

新卒入職職員へのフォローアップ研修の実施

目的：1年目の目標の明確化及びフォロー実施することによる離職防止

日程：4回開催(5,7,10,3月)

中堅職員研修の実施

目的：3年までの職員離職を防ぐこと及び、リーダー候補を計画的に養成する。

2年目職員フォローアップ研修(6,12月)

2・3年目対象モチベーションアップ研修(10,11月)

4・5年目対象主任見習い研修(1,2月)

係長等対象管理職研修(1,2月)

### 3. 法人の概要

#### 3-1 事業所の概要

事業部	事業所名	サービス名	定員	管理者	開設年月	
高齢福祉 事業部 「サンクス」	介護老人保健施設 サンクス米山	介護老人保健施設	100名	原田 雷太郎	H15.9	
		通所リハビリテーション 訪問リハビリテーション	30名			
	サンクス柿崎	短期入所生活介護 通所介護	40名 20名	高橋 喜寛	H25.4	
	特別養護老人ホーム サンクスレルヒの森	指介護老人福祉施設	100名	塚田 光知子	H27.6	
障害福祉 事業部 「りとるらいふ」	りとるの家	生活介護「きら」	20名	片桐 友紀	H22.4	
	りとるの家はなれ	放課後等デイサービス「ららん」	10名	片桐 友紀	H24.5	
		短期入所「ぷあん」	8名	松田 清司		
	とも	生活介護「とも」	20名	片桐 友紀	H30.4	
	にこ	放課後等デイサービス「にこ」	10名	片桐 友紀	H27.6	
	ぱれっと		放課後等デイサービス「もーと」	10名	片桐 友紀	H31.4
			グループホーム「ふぁみりあ」	12名	松田 清司	H31.4
生活サポートホーム「ぱれっと」			6名	松田 清司	H31.4	
しゃぼん玉クラブ	高田西小学校放課後児童クラブ	75名	片桐 友紀			
児童福祉 事業部	児童養護施設 若竹寮	児童養護施設	56名	丸田 明久	H29.4	
地域生活 支援部	みんなでいきる 相談センター	地域包括支援センター 居宅介護支援 特定計画相談支援 障害児相談支援 上越市安心生活支援事業 (コールセンター)		江部 健幸	H30.4	

3-2 施設職員数の推移 正 正職員 他 契約職員・パート・アルバイト

拠点名	年度	平成 29 年度末	平成 30 年度末	令和 1 年度末	増 減
サンクス米山	正	78 人	75 人	72 人	3 人
	他	24 人	20 人	23 人	3 人
	計	102 人	95 人	95 人	0 人
サンクス柿崎	正	32 人	29 人	27 人	2 人
	他	12 人	13 人	16 人	3 人
	計	44 人	42 人	43 人	1 人
サンクスレルヒの森	正	57 人	59 人	57 人	2 人
	他	14 人	20 人	26 人	6 人
	計	71 人	79 人	83 人	4 人
りとるらいふ	正	37 人	34 人	40 人	6 人
	他	23 人	22 人	24 人	2 人
	計	60 人	56 人	64 人	8 人
若竹寮	正	26 人	29 人	33 人	4 人
	他	10 人	9 人	6 人	3 人
	計	36 人	38 人	39 人	1 人
相談センター	正		11 人	11 人	0 人
	他		0 人	0 人	0 人
	計		11 人	11 人	0 人
法人本部	正	9 人	9 人	9 人	0 人
総 計		322 人	330 人	344 人	14 人

3-3 財産債務及び損益の状況の推移

(1) 財産債務の推移

(単位：千円)

事業年度 項目	平成 29 年度 H30.3.31 現在	平成 30 年度 H31.3.31 現在	令和 1 年度 R2.3.31 現在	増 減
流動資産	565,192	632,080	472,524	159,555
固定資産	2,702,155	2,940,466	2,852,100	88,366
基本財産	2,430,194	2,341,521	2,515,964	174,442
その他の固定資産	271,960	598,945	336,135	262,809
資産の部 計	3,267,347	3,572,547	3,324,624	247,922



流動負債	339,700	627,594	315,168	312,425
固定負債	2,013,975	1,923,558	2,066,928	143,369
負債の部 計	2,353,676	2,551,153	2,382,097	169,055
純資産の部 計	913,671	1,021,394	942,527	169,055

(2) 損益の推移

事業年度 項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度	増 減
サービス活動収益	1,652,484	1,704,230	1,746,224	41,993
人 件 費	1,020,185	1,098,861	1,130,837	31,975
事 業 費	218,433	230,949	234,615	3,666
事 務 費	251,807	265,636	286,570	20,934
減 価 償 却 費	97,828	103,157	116,981	13,824
そ の 他	7,804	9,573	9,733	160
サービス活動費用	1,596,057	1,708,178	1,778,736	70,558
サービス活動増減差額	56,426	-3,947	-32,512	-28,564
サービス活動外収益	5,462	5,717	6,269	551
サービス活動外費用	17,608	16,851	16,746	-104
経常活動増減差額	44,280	-15,081	42,989	27,908

3-4 会議の開催状況

(1) 理事会（定数 7 人）

回 数	開 催 年 月 日	出 席 理事数
第 1 回	令和 1 年 5 月 27 日	6 名
第 2 回	令和 1 年 6 月 12 日	6 名
第 3 回	令和 1 年 7 月 5 日	7 名
第 4 回	令和 1 年 12 月 2 日	7 名
第 5 回	令和 2 年 3 月 30 日	7 名

(2) 評議員会（定数 8 人）

回 数	開 催 年 月 日	出 席 評議員数
第 1 回	令和 1 年 6 月 10 日	6 名

3-5 監査の状況

(1) 法人監事による監査

実施日時：令和 1 年 5 月 13 日

場 所：法人本部

監査項目：会議開催状況、決算、資産・負債残高照合

監査所見：特になし